

令和4年度^{恩賜}財団済生会総会 総裁お言葉

2023年2月12日

本日、「令和4年度^{恩賜}財団済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ横浜市において3年ぶりに開催されますことを誠に喜ばしく思います。

済生会は、明治44年、明治天皇の済生勅語により創立されました。爾来、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力と英知のおかげにより、今では日本最大の医療・福祉団体となるに至りました。

ここ神奈川県内には、済生会横浜市東部病院をはじめ6つの病院が公的医療機関として地域に必要な医療を提供しているほか、3つの施設を運営するなど、各施設の職員が昼夜を問わず医療と福祉の増進に取り組んでおられます。

さて、2020年初頭からの3年間、私たちはSARS-CoV-2というウイルスの脅威にさらされてきました。この間、私は、このウイルスによるCOVID-19の患者を受入れている済生会の複数の病院から、対応状況についてオンライン等で説明を受ける機会を得ました。いずれの施設においても、職員が常に感染する危険にありながらも誇りと使命感を持って、献身的に患者と向き合っている姿に深い感銘を覚えました。

また、昨年9月には、久喜市の栗橋病院から移転新築した加須病院を視察いたしました。埼玉県東部の三次救急医療や高度な医療を担う地域の基幹病院としての役割に加え、県の要請を受け、プレハブの新型コロナ専用医療施設を敷地内に設置し、入院患者を受け入れるなど、「施薬救療」の精神の下、積極的に社会の要請に応える取り組みは誠に印象的でした。

今後とも、本会全ての役員および職員が本会の使命を達成するために邁進し、地域の人たちの健康と暮らしを支える柱の一つとして、より一層大きな役割を果たしていくことを希望いたします。

終わりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の長年にわたるご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表するとともに、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。